

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）

フリガナ) コクガクインダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) ミヤシタゼミナール
國學院大學	経済学部	宮下ゼミナール

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ) チームパリピピ	フリガナ) ハクタ トモヒコ	4	無
Team ぱりぴっぴ	白田 朋彦		

研究テーマ（発表タイトル）

熊本復興～若者の野菜不足の解消による野菜消費量の増加～

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

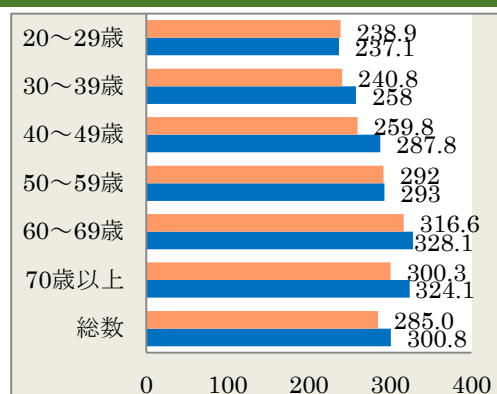
1. 研究概要（目的・狙いなど）

日本を襲う災害。その復興には継続的な支援が必要だ。今回は、今年4月に起こった熊本の震災をベースとして取り上げる。この案の目的は震災復興、その中でも農業分野への継続的な支援である。そのために学食で行える金銭的な支援の仕組みを考案した。しかし、金銭的な支援だけでは復興へ十分ではないと考え、私たちは農家自体の消費を増やすために「日本人の野菜の消費量」に着目し、学食で熊本の野菜を使って野菜の消費量を向上させつつ支援金を集める仕組みを作ることで「生産物消費の復興」と「金銭的な復興」の両面を支援する案を発表する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

まずは熊本の現状分析からおこなう。熊本は農業大国であり、特に野菜の生産額は全国第5位である。しかし、今回の震災で農業被害額は1062.9億円にのぼり、経済的ダメージは深刻である。さらに、熊本県の公表した農地の復旧・復興ロードマップでは農地の復興に少なくとも4年を要すると出ており、熊本の建て直しには時間もかかることがわかった。

次に野菜不足の現状分析をおこなう。厚生労働省によると1日の野菜摂取目標は350gであるが、日本人は全体的に目標摂取量に足りていない。特に20代の野菜摂取量が少ない。しかし、野菜が取れないことに対しては約9割が野菜不足に対して問題意識をもっている。



3. 研究テーマの課題

農地の建て直しに4年かかり、いざ復旧しても元の生産量まで回復するにはさらに時間がかかるため、農家の人が元の安定した収入を得るまでの長期的な支援金などの補助することが求められる。しかし、東日本大震災を例にとると支援金の推移が1年目と3年目で100分の1まで下がるため、継続的な支援の仕組みを考える必要がある。

農地復旧後は、その土地でできた野菜を消費するために、日本人の野菜不足を解消しなければならない。そのため、4年後までに

日本人の野菜摂取する量を増やすことが求められている。ここに着目したビジネスモデルを考える。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

そこで私たちは「熊本の野菜を使った復興支援ランチ」を提案する。

仕組みは熊本の野菜を生産できる農家から野菜を買って学食の復興支援ランチの野菜サラダに使用して、そこで得た支援金を熊本の農業復興支援金として送る。

「野菜を生産できる農家への支援」をし、「熊本で野菜を生産できない農家」への支援を実現する。大学生の消費活動で熊本農業への支援活動ができる。

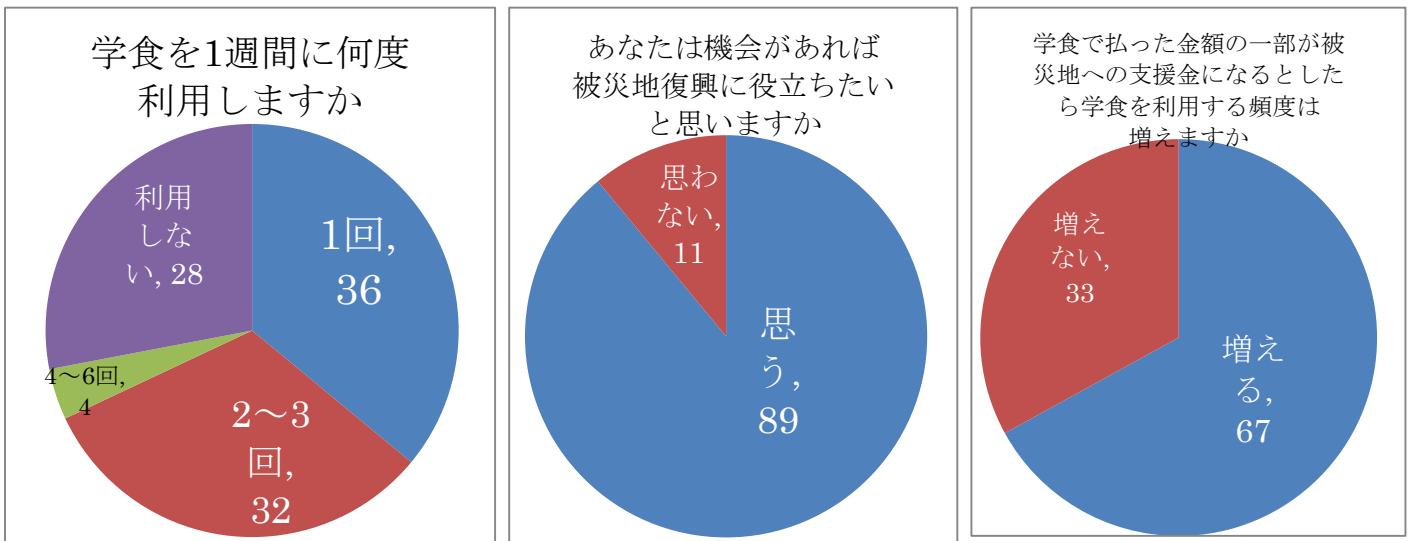
この仕組みで 20 代の野菜摂取量の増加・熊本の復興財源の獲得・支援のバックとして生産物で大学の PR をしてもらうことで、三者に WIN・WIN・WIN の関係が成り立つ。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

大学生を対象に 100 人にアンケートを行った。質問内容は以下の通り。

- ・学食を 1 週間に何度利用しますか
- ・あなたは機会があれば被災地復興に役立ちたいと思いますか
- ・学食で払った金額の一部が被災地への義援金に回されるとしたら積極的に学食を利用する頻度は増えますか

結果は以下の通りである。



6. 結果や今後の取り組み

復興ランチによる寄付金額シミュレーションを行った。アンケートから 1 人あたりの 1 週間の学食利用頻度を 1.36 回とし、國學院大學渋谷キャンパスの生徒、教職員数 9638 人で計算すると 1 週間に学食は 13,107 回の利用がある。そのうち 67%がこのランチを利用すると想定し 1 回のランチで 50 円の寄付があると、1 週間に 439,050 円の支援金が集まる。

今後の取り組みとしては、この仕組みをモデルとして他大学、さらには企業の食堂まで発展させることにより、継続的支援を確立させる。また、熊本だけでなく今後起こる災害への支援にもこの仕組みを発展させることができるであろう。

7. 参考文献

熊本ロードマップ（熊本県）

https://www.pref.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c_id=3&id=16643&sub_id=1&flid=76334

野菜の 1 日の摂取量「350 g」とは（農林水産省）

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/seiryuu/yasaikudamono/pdf/2505yasai2.pdf>

日経新聞 朝刊 2016. 7.14 記事

<https://t21.nikkei.co.jp/g3/ATCD017.do?keyPdf=20160901NKLLX010114671%5CNKL%5C13%5C13%5C001%5C%5C346%5CY%5C%5C2016%2F0901%2F20160901NKLLX010114671.pdf%5CPDF%5C20160901%5Ce850c173&analysisIdentifier=&analysisPrevActionId=CMNUF10>

読売新聞 刊 2016.4.15 記事

<https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/viewerYomiuriNewsStart.action?objectId=We503rNPfa7%2FITytLNHdznevR850e%2B5IZIFd1xxlttk%3D>

平成 28 年（2016 年）熊本地震の農林水産業関係被害の状況（農林水産省）

<http://www.maff.go.jp/j/saigai/zisin/160414/kumamoto/taiou.html>

2013 年経済基盤（総務省 統計局統計情報システム課統計情報企画室）

<http://www.stat.go.jp/data/k-sugata/index.htm>

震災義援金激減 3000 億→29 億円 日赤「まだ支援は必要」（東京新聞 web2015.03.09）

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/feature/tohokujisin/list/CK2015030902100009.html>

野菜摂取ならびに食生活に関する実態調査（一般社団法人ファイブ・ア・デイ協会）

http://www.5aday.net/pdf/sainohi/press_release_160330_summary.pdf

熊本県 平成 27 年度 統計アラカルト

http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_8689.html

農業協同組合新聞電子版 2016.05.12「買って熊本農業の支援を 東京・大手町の J Aビルで P R」

<http://www.jacom.or.jp/noukyo/news/2016/05/160512-29785.php>

農林水産省 平成 25 年度 農林水産統計

http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/nougyou_sansyutu/pdf/shotoku_kenbetsu_14.pdf

厚生労働省 平成 26 年度 「国民健康・栄養調査」

<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/0000117311.pdf>

内閣府 「世論調査」 ※平成 22 年度・24 年度

<http://survey.gov-online.go.jp/>

一般法人ファイブ・ア・デイ教会 事務局 「野菜摂取ならびに食生活に関する実態調査」

http://www.5aday.net/pdf/sainohi/press_release_160330_summary.pdf

共同通信 PR ワイヤー 2016.8.25 記事

<http://prw.kyodonews.jp/opn/release/201608243619/>

東北文化学園大学 H P

<http://www.tbgu.ac.jp/>

杏林大学 H P

<http://www.kyorin-u.ac.jp/>

國學院大学 H P

<http://www.kokugakuin.ac.jp/>

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までをお渡します。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限りません。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。